



(鍋島会長式辞)

計量みやぎ

編集発行
 仙台市太白区長町7-22-23
 宮城県計量検定所内
(社)宮城県計量協会
 TEL 246 2466・FAX 247 1490
 www.keiryo.net/

社団法人宮城県計量協会

設立55周年(法人化50周年)記念式典を盛大に開催

記念式典は、六月二日(金)「江陽グランドホテル」において、鮫内雅幸経済産業省計量行政室長、村井嘉浩宮城県知事、梅原克彦仙台市長などの来賓及び会員、協会関係者を含め10名の出席を得て盛大に挙行了した。
 式典は、3部構成で進められ、第1部は計量功労者の表彰式、来賓祝辞を含む式典。第2部は特別講演。第3部は記念祝賀会が執り行われた。

設立55周年(法人化50周年)

記念式典開催に当たり

宮城県知事 村井嘉浩

本日は、お招きいただきましてありがとうございます。

社団法人宮城県計量協会設立55周年(法人化50周年)記念式典が開催されるに当たり、一言お祝いを申し上げます。

始めに、長年にわたり計量業界等の発展に寄与されました御功績により、只今、栄えある表彰を受けられました皆様には心からお祝いを申し上げますとともに、今後とも計量思想の普及と業界発展のために、なお一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

また、本日ご出席の皆様方には、日頃から県政の推進に多大の御協力とご支援を賜っておりますことに対し、この席をお借りして厚くお礼を申し上げます。

計量制度は、国民生活から産業界の生産活動、商取引、さらには、大学等にわたる研究活動に至るまで、広範囲にわたる御尽力の賜物であり、深く敬意を表します。

計量制度は、国民生活から産業界の生産活動、商取引、さらには、大学等にわたる研究活動に至るまで、広範囲にわたる御尽力の賜物となる重要なものでござい



す。県といたしましては、なお一層適正な計量行政の推進に努めてまいりたいと考えておりますので、皆様方の御協力を賜りますようお願い申し上げます。会員の皆様におかれましても、

これまでにも増して計量思想の普及と業界の発展に御精進下さいますようお願いいたします。

皆様ご承知のとおり、県の財政は、地方交付税の大幅な縮減など構造的な財源不足でこれまでにない厳しい状況にありますが、そうした中においても、今年度は、地域の自立的な発展に向けたスタートの年として、県内産業経済の活性化など優先度の高い施策に積極的に取り組んで参りますので、皆様におかれましても産業振興に更にお力をお貸しくださいますようお願い申し上げます。

むすびに、社団法人宮城県計量協会の更なる御発展と御参会の皆様方の御健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

運営強化事業を軸として 第四十九回通常総会開催

平成十八年度通常総会は、六月二日(金)仙台市、江陽グランドホテルにおいて、開催された。

総会は、定刻十時三十分には平野副会長が開会宣言し、鍋島会長挨拶に続いて、定款二十四条に基づき鍋島会長が議長に就任し、出席者報告で委任状も含む二二三名議決権所有出席四十七名(出席のもとに、議事の審議に当たり、第一号議案から第四号議案について協会武田専務理事、同会計担当斎藤事務局次長が報告を行い満場一致で可決された。報告事項として、



決 議 議 案

〈第一号議案〉

平成十七年度事業報告について
平成十七年度の会員の状況、理事及び諸会議の内容、公益事業として、計量記念日事業、工業品材料試験分析事業、仙台市指定定期検査事業、流通事業者指導、機関誌、計量みやぎ」の発行。

収益事業として、特定計量器の代検査事業、材料試験機の検査、計量証明事業、計量管理受託事業、各部会合同研修会について説明し、満場一致で承認された。

〈第二号議案〉

平成十七年度収支報告書の承認について
一般会計
五、三八七、八四六円

受託金特別会計
二二、七四三、六三五円

指定定期検査機関特別会計
二五、七三六、五九七円

収益事業特別会計
三一、九九二、五五二円

なお収益事業特別会計においては、三六八、二五八円の当期利益が生じ、これを次年度一般会計へ繰り入れの決算を満場一致で承認された。

〈第三号議案〉

平成十八年度事業計画書(案)の審議について

〈第四号議案〉

平成十八年度収支予算書(案)の審議について
一般会計
六、〇八〇、〇〇〇円

受託金特別会計
二四、三六五、五〇〇円

指定定期検査機関特別会計
二六、八一〇、〇六〇円

収益事業特別会計
二八、五四八、五〇〇円

の収支予算について満場一致で可決しました。

〈報告事項〉

(1) 顧問の推薦について

本会顧問であった宮城県議会議員村井嘉浩氏が、平成十七年十月の知事選挙において知事に当選されたことにより、後任に宮城県議会議員石川光次郎氏を本年四月一日付けで顧問に推薦しました。

(2) 計量功労者の表彰について

宮城県知事褒賞、(社)日本計量振興協会会長表彰、東北六県北海道計量協会連合会長表彰、当協会会長表彰・褒賞について報告された。

(3) 東北・北海道計量大会

日程について
今年度は福島県の当番で十月十一日予定されているとの報告があった。

平成十八年度 事業計画

平成十八年度は、平成十七年度に引き続き下記の事業を軸とした運営強化事業の展開を行う。

仙台市から「指定定期検査機関」として指定を受け五年目にあたり、特定計量器の定期検査及び立入検査補助の委託を受け計量の安全確保、消費者擁護に努めてきたこれまでの実績を踏まえ、更なる実施体制の強化を図るとともに、平成十六年度に全国一斉に受託した日本郵政公社の適正計量管理事業の効率的な業務体制を図り、継続事業として着実に推進する。

また、これからの厳しい時代に対応できる団体として、更なる協会の運営基盤を強化し県民の正しい計量思想の普及並びに、中小企業の発展に寄与するため本会事業を着実に展開する。各事業の概要は、下記の通り。



主な事業の基本方針

1. 運営強化事業

取引証明用計量器の代検査事業の長期継続（六市八郡十七町対象）

仙台市指定定期検査機関の行う定期検査の長期継続

工業品材料及び製品試験分析事業の長期継続

計量士部会が行う材料試験機検査事業の拡大

仙台市管内立入検査補助業務の継続

日本郵政公社の受託事業の長期継続

適正計量管理事業所受託事業の長期継続

質量計量証明事業の継続

計量記念日事業による計量思想の普及啓発

2. 公益事業

「みやぎ計量のひろば」の開催

「計量みやぎ」の発刊

受託事業、工業品材料分析試験（鉄筋・コンクリート）の継続

仙台市指定定期検査機関の事業継続

商品量目・特定計量器立入検査補助業務の継続

3. 収益事業

計量士による代検査業務の継続

質量計量証明事業の継続

計量管理受託事業の継続

日本郵政公社の計量管理受託事業の継続

材料試験機の検査業務の継続

宮城県収入証紙販売の拡充

4. 部会活動対策事業

工業・環境・流通・計量士・計量器コンサルタント等の研修、講習会等の展開

優良事業場及び永年勤続従業員の表彰

県内計量器販売者の研修・育成

5. 行政並びに関係機関諸会議

(社)日本計量振興協会第七回通常総会

期日 平成十八年五月二十九日(月)

場所 東京都内

平成十八年度東北・北海道計量大会及び第五十五次連合総会

期日 平成十八年十月十一日(水)

場所 福島県管内

平成十八年度第二十八回計量士等東北地区協議会

期日 平成十八年十一月～十二月

場所 宮城県管内

平成十八年度東北・北海道計量協会事務局長会議

期日 平成十九年一月～二月

場所 福島県管内

行政機関及び各種団体の主催する行事等の参加

平成18年度社団法人宮城県計量協会収支予算書(案)

収支予算総括表

(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

単位：円

Table with 7 columns: 一般会計, 受託金特別会計, 指定定期検査機関特別会計, 合計, 収益事業特別会計, 収益事業, +. Rows include income and expense categories like '1 収入の部' and '2 支出の部'.

計量管理受託事業の継続

日本郵政公社の計量管理受託事業の継続

材料試験機の検査業務の継続

宮城県収入証紙販売の拡充

工業・環境・流通・計量士・計量器コンサルタント等の研修、講習会等の展開

平成十八年度東北・北海道計量大会及び第五十五次連合総会

期日 平成十八年十月十一日(水)

場所 福島県管内

平成十八年度第二十八回計量士等東北地区協議会

期日 平成十八年十一月～十二月

場所 宮城県管内

平成十八年度東北・北海道計量協会事務局長会議

期日 平成十九年一月～二月

場所 福島県管内

行政機関及び各種団体の主催する行事等の参加



式 辞

社団法人宮城県計量協会

会長 鍋島綾雄

社団法人宮城県計量協会は、計量法の施行を機会に昭和二十七年宮城県計量協会と衣替えしてから五十五周年を迎えることが出来ました。宮城県支部は、大正六年に発足しており、宮城県計量協会は実質九十年の歴史と伝統を誇る団体であります。

計量の重要性を早くから認識され、協会発足僅か五年後には法人化が実現しています。昭和三十年代初頭のこの時期に一地方計量団体が社団法人化したことは、極めて異例なことでも全国でも二三の例しかない珍しいことであります。近年指定定期検査機関の指定を受けるため、法人化に大変苦勞をしてきている各地の計量協会が多いのを見るにつけても、偉大な先輩の先見の明に驚かされる大いなる感謝の念を捧げているところでもあります。

爾来五十年の月日が経過しましたが、その間上部団体であります社団法人日本計量振興協会と緊密なる連携のもとメートル法の完全実施と計量思想の普及啓発を協会の最大の使命としてこれを強力に推進して参りました。

幸い果も我々の努力を注目し、計量協会の能力を評価信頼してくれまして、宮城県産業技術総合センターで行っていたしました工業製品材料試験分析業務を計量協会委託に実現して頂きました。

また、仙台市は計量法上に指定定期検査機関制度が出来るや、平成十三年度には逸早く協会を仙台市の指定定期検査機関に指定して頂きました。この五十五周年を機に協会の基盤をより一層強固なものにするため、消費者団体・計量器大口ユーザー等の加入を更に推進し、協会本来の使命である計量思想の普及啓発に邁進する覚悟でございますので、今後とも一層のご支援・ご指導をお願い申し上げます。

記念式典次第

第一部 記念式典

(13:40~14:40)

- 一、開式のことば
- 一、会長式辞
- 一、計量功勞者発表
- (一) 知事褒賞
- (二) 会長表彰・褒賞
- 一、受賞者代表謝辞
- 一、来賓祝辞

経済産業省産業技術環境局

知的基盤課計量行政室

- 藪内 雅幸 様
- 宮城県知事 村井 嘉浩 様
- 仙台市長 梅原 克彦 様
- 社団法人日本計量振興協会会長 飯塚 幸二 様

一、来賓紹介

一、閉式のことば

第二部 特別講演

(14:45~15:45)

講師 宮城大学初代学長

野田 一夫 先生

演題「社会のファンダメンタルズ」

第三部 記念祝賀会

(16:00~18:00)

- 一、開宴のあいさつ
- 一、乾杯
- 一、余興
- 一、中締め
- 一、閉宴のことば



場の皆様



景



謝辞 山口賜夫氏



知事褒賞 二階堂亮一郎氏

計量功勞表彰

式典において、計量功勞者の表彰式が行われた。表彰式では、優良従業員として、二十五年以上勤務または計量管理により、その成果が顕著であることから、知事褒賞として、日東イシダ(株)山口賜夫氏・計量士二階堂亮一郎氏の二名が表彰された。

協会会長表彰では、二十年以上事業所に勤務して計量関係に卓越した技量と人望の高いことから、日東イシダ(株)松原光一氏・東北緑化環境保全(株)算用子淳夫氏・日本エンヂニヤ・サービス(株)山口義仁氏・(株)藤崎鈴木孝一氏・(株)金門製作所仙台支店後藤岳氏・(株)タツノ・メカトロニクス東北支店高松洋彦氏の六名が表彰された。

また、会長褒賞では、永年勤続従業員として十年以上同一事業所に勤務し勤務評価が他の模範となることから、日東イシダ(株)星亨氏・日東イシダ(株)三浦広文氏・トキコテクノ(株)千葉真由美氏・東北緑化環境保全(株)小林厚氏・日本エンヂニヤ・サービス(株)杉内早苗氏・北日本環境整備(株)出町健氏の六名が表彰された。



舞紅萩チーム

社団法人宮城県計量協会誌



来賓者 右から、行政室長籾内雅行様・宮城県知事村井嘉浩様・仙台市長梅原克彦様
宮城県議会議員石川光次郎様・仙台市議会議員渡辺博様



左から、(社)日本計量振興協会長飯塚幸三様・日本計量史会長養輪善蔵様
全国計販連副会長千葉國史様・鍋島会長



記念講演 宮城大学初代学長 野田一夫先生
演題「社会のファンダメンタルズ」



熱心に聴きいる会



祝賀会風景



余興「みちのくよさこい」

55年のあゆみ

大正 六年 九月

(社)日本度量衡協会宮城県支部が結成され、宮城県の内務部長の阿部龜彦氏が支部長に就任、副部長に宮城県の勸業課長の伊藤貞次氏が就任した。

昭和 五年 八月

蔵王山頂にメートル指導標の建設。この事業はメートル法普及のため蔵王山頂に三十センチ角、高さ四メートルの大指導標を建てようというスケールの大きな計画であった。指導標建設者は河北新報社の一力次郎社長、後援には宮城県・仙台鉄道管理局・白石官林署が入り、測量は検定所が担当した。これらにあたっては、各団体、民間の心援も必要であり白石、宮、円田、大河原等各役場、軍人、青年団、消防、学生、組合、地区住民等から応援を得るなど大掛かりな事業となった。

昭和 二七年 九月

社日本度量衡協会宮城県支部を発展的に解消し、宮城県計量協会(任意団体)を発足する。

昭和 三三年 四月

協会任意団体を(社)宮城県計量協会に改称。

昭和 三四年 一月

(社)宮城県計量協会計量器工業部会発足(会員二十五名)

昭和 五三年 四月

「計量みやぎ」創刊号発行

昭和 五八年 四月

大型はかり(仙台市と郡部の一部)の代行検査開始

昭和 五八年 一月

宮城県食糧事業協同連合会の計量器使用事業場業務管理委託を受託

昭和 六一年 四月

「質量」計量証明事業登録

昭和 六一年 二月

計量士部会・流通部会発足

平成 元年 九月

計量器コンサルタント部会発足

平成 二年 六月

環境事業部会発足

平成 三年 八月

販売事業部会発足

平成 八年 四月

宮城県産業技術総合センター依頼試験等業務委託

平成 一四年 四月

仙台市指定定期検査機関指定

会 社 紹 介



〔会社概要〕

社 名 トキコテクノ株式会社
代 表 者 取締役社長 町田 達彦
本 社 横浜市鶴見区鶴見中央3-9-27
東北支店 仙台市若林区鶴代町3-22
資 本 金 25億円(平成18年4月1日現在)
従 業 員 794人(平成18年4月1日現在)
事 業 所 9支店/42営業所/9駐在所/1工場
<http://www.tokicotechno.co.jp/>

東北支店は、現在6営業所・3駐在所で80名の陣容で日夜SSの建設・施工・計量機販売・保守を行っております。

許認可登録

- 「ISO9001」品質マネジメントシステム (設計・製造)(保守・サービス)
- 「ISO14001」環境マネジメントシステム
- 指定製造事業者(指定 (自動車等給油メーター)(大型車載燃料油メーター)(定置燃料油メーター))
- 建築工事業：国土交通大臣許可
- 土木・電気・管・機械器具設置工事業：国土交通大臣許可
- 一級建築士事務所登録
- 土壤汚染対策法・指定調査機関(第3条1項)

事業の紹介
私たちは、燃料ステーションの未来を創造します。
 ガソリン計量機の開発はもとより、給油所をはじめ、陸・海・空の給油設備のプランニングから設計・施工までをトータルにサポートします。さらに、先進技術と総合力で、セルフステーション、LPG・CNG・水素ステーションなど、新時代の燃料ステーションをカタチにします。
私たちは、フロントの未来を創造します。
 流体をコントロールするテクノロジーと給油所建設のノウハウが、大規模プラントのシステムエンジニアリングに活かされています。
私たちは、計装の未来を創造します。
 トータルな生産ラインで、ガソリン計量機、ハイテク流量計からPOSシステムまで高品質な計装機器を生み出します。また、あらゆるタイプの流量計の精度校正に対応する校正設備を有して、万全の品質チェック体制を確立しています。
私たちは、豊かな地球環境の未来を創造します。
 これからの最重要課題である、地球環境保全への取り組みとして、タンクの腐食診断から土壌調査、土壌改良まで、トータルな環境サポートを展開しています。
私たちは、メンテナンスの未来を創造します。
 原子力発電所の制御機器のメンテナンスから、給油所、各種給油設備のトータルメンテナンスまで、エネルギー関連設備の保全をハイテク的なサービスでサポートします。

〔東北支店仙台営業所沿革〕
 当社は、1950年(昭和25年)給油所建設・ガソリン計量機販売のトキコ油器(株)として創業、その後1998年(平成10年)トキコメンテナンス(株)と合併しトキコテクノ(株)と合併しトキコテクノ(株)を商号を変更、さらに2002年(平成14年)に旧トキコ計装事業部と統合し、製造・販売・サービス一体の総合エンジニアリング会社としてエネルギー産業の未来をクリエイトしております。



東北六県・北海道 計量協会事務局長会議開催

平成十七年度東北・北海道計量協会事務局長会議は、岩手県当番により、二月十日(金)岩手県盛岡市駅前北通1-44「ホテルメトロポリタン」盛岡本館において開催された。
 参加者は、各道県計量協会専務理事及び事務局長十一名、(社)計量計測技術センター、小野寺修会長の挨拶の後会議は岩手県古館俊一専務理事の議長により進められた。



各道県から提案された議題は次の通りです。
〔議題一〕 (社)日本計量振興協会の年額会費試算について (福島県)
〔議題二〕 検査業務における諸手当について (福島県)
〔議題三〕 計量管理を含めた代検査業務について (北海道)

- 〔議題四〕 指定定期検査等機関の運営について(青森県)
- 〔議題五〕 定期検査及び代検査手数料について(情報交換) (宮城県)
- 〔議題六〕 会員数の状況について(情報交換) (宮城県)
- 〔議題七〕 協会と計量行政との計量に関わる事業について (秋田県)

以上の議題について、各道県から趣旨説明があり、真剣に討議された。特に福島県より提案のあった議題一については、各道県よりそれぞれ意見がだされ、ブロック内での話し合いが必要であり、修正可能(再見直し)であれば、検討したいとのことを宮城県(鍋島会長は運営委員長のこと)からあった。



一般公開・みんな集まれ 技術のおもちゃ箱

宮城県産業技術総合センターにおいて、去る七月七日金、八日土の両日、今年も恒例になりました三回目の一般公開が開催されました。

この一般公開は県民、とくに青少年を対象として技術とふれあう場を提供し、来所された皆様に産業技術を身近に感じていただくとともに、センターの事業内容を広く県民に紹介してご理解をいただくために開催されているものです。

体験！鉄筋破断の驚きの瞬間」と銘打った建築・土木材料の鉄筋の引っ張り試験の実演を行いました。初日の七日は近隣小学校(三校)の六年生児童生二百四十人を招待して、体験教室と実演紹介コーナーを体験してもらいました。

この実演のひとつに普段めつたに体験できない百トンに近い鉄筋破断の瞬間を、写真に見られる様に今か今かと目をまばたかせながら息を飲み、体を構えたりして

「工業製品から食品まで」に及ぶ等センターの設備・機器を使用したものづくりの楽しさに触れながら様々な成果物の展示と体験教室、及び県内の四地域から協力をいただいた伝統工芸品の展示とその体験教室の紹介がありました。

この両日、センター内に配置されている当計量協会において



また、そして森然バチン...ドスン...という大きな破裂音に一瞬両手を握りしめたまま胸までもっていつたり、両手で耳を押さえたり、身をのけぞらせながらの身震いと同時に、「キヤーン!!」と喚声を上げる驚きの連続がリアルにうかがわれました。とくに女性教師の方々は、生徒以上に驚愕の身振りやしやがみ込んだり、また親子連れの方々ではお母さん達は、悲鳴を上げながら逃げ出したりする様子が毎年見受けられるようになりましたが、子供達はじつとして冷静でした。

後日、近隣小学生から寄せられたアンケートによると六種の実演紹介コーナーのうち、ここ三年とりわけ、鉄筋破断の驚きの瞬間を体験！に最も興味があり印象強かつたらしく、鉄筋が細くなつて切れる瞬間はとて貴重で大変楽しい体験をしました。また見学に行きたい、などという感想が多かつたようでした。

近年、青少年の「理科離れ」が言われているなかで、この様に幼児期や小学生時代に様々な体験をすることにより科学に興味を湧いてきて、将来科学に対する関心が芽生えたりするのではないかと思われましました。

また、同時開催として循環型社会、つくりの一环に、再生資源の有効活用とリサイクル産業の育成を目的に、本県の優れたリサイクル製品を、宮城県リサイクル製品として認定し、その普及拡大を目指しているものです。これは過去七年間に県内企業が様々な廃棄物を再生利用して製造した製品に対して、本県がリサイクル製品として認定した六十三品目の展示品を出展したものです。今後とも、県民をあげてますますこれらの製品を積極的に利用されることを期待したいものです。

来年もまた開催されるとのことです。「見て！作って！遊ぶ！」というような体験教室に小学生以下の子供達に人気があった様子で、二日間でも昨年より毎年更新し百名を上回り、およそ千五百名の見学者の方々が訪れ好評のうちに終了しました。

また、同時開催として循環型社会、つくりの一环に、再生資源の有効活用とリサイクル産業の育成を目的に、本県の優れたリサイクル製品を、宮城県リサイクル製品として認定し、その普及拡大を目指しているものです。これは過去七年間に県内企業が様々な廃棄物を再生利用して製造した製品に対して、本県がリサイクル製品として認定した六十三品目の展示品を出展したものです。今後とも、県民をあげてますますこれらの製品を積極的に利用されることを期待したいものです。



(社)日本計量振興協会第七回通常総会開催

五月二十九日(月)「マツヤサロン」(東京都千代田区平河町二七九(全共連ビル六階))で通常総会が開催された。

- 第一号議案 平成十七年度事業報告について
- 第二号議案 平成十七年度収支決算報告について
- 第三号議案 平成十八年度事業計画(案)について
- 第四号議案 平成十八年度収支予算(案)について
- 第五号議案 第一種正会員(地区計量協会)会費改定(案)について
- 第六号議案 役員を選任(案)について



事務局より説明があり、満場一致で承認された。

次に、平成十七年度補助所業調査委員会成果発表があった。引き続き計量功労者表彰式(社)日本計量振興協会長表彰があり、第一種会員(団体)関係から、三十七名、第二種会員(法人)関係から七名が表彰された。

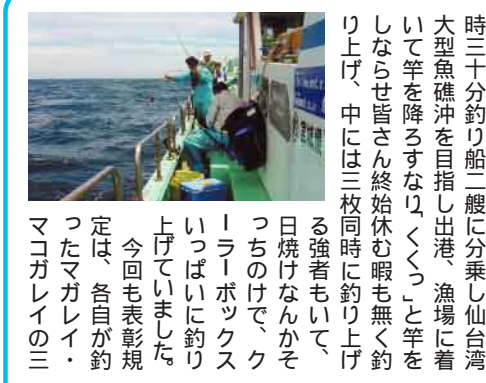
第一種会員から、当協会理事、佐藤武志氏(株)寺岡システム第二種会員から、日東イシダ(株)牧峰夫氏が受表彰された。

平成十八年度 つり大会

(月1枚土)

前日からの悪天候が嘘のような快晴の青空に恵まれ照りつける太陽の下、今年も恒例の釣り大会を開催しました。

今回の参加者は二十一名で、朝五時三十分釣り船一艘に分乗し仙台湾大型魚礁沖を目指し出港、漁場に到着して竿を降ろすなり、「くく」と竿を上げ、中には三枚同時に釣り上げる強者もいて、



日焼けなんかそ	の強者もいて、	の合計の長さで競い合い、優勝は三枚併せて91mを釣り上げた藤田名人で入賞者は次の通りでした。なお、今回は毎回ダウンしながらも頑張つて釣り上げてるといふことで、私筆者も努力賞をいただき、ありがとございました。
つちのけで、ク	ラーボックス	入賞者
いっぱい釣りに	上げていました。	優勝 91m 藤田 保 氏 (トキコテクノ(株))
今回も表彰規	定は、各自が釣	準優勝 90.5m 内海 宗夫 氏 (トキコテクノ(株))
ったマガレイ・	マコガレイの三	第三位 90m 須藤 光義 氏 (協合理事)
		努力賞 30枚 庄子 学 (協合理事)
		全体の釣果は145枚、30枚でした。



お気に入り紹介

これからの季節、夏から秋にかけてドライブには最適ですね。今回は、蔵王の方へ出かけた折に、是非立ち寄っては...という店、手打ち蕎麦「自由庵」をご紹介します。

遠刈田温泉を過ぎ、自由庵と書かれた看板を目安に進んでいくと、林の奥の方にあり、回りには別荘なども建っておりとても静かなところ。店の前に立つと、入り口からは蕎麦屋？とは想像出来ない洒落た外見で、中に入ってみると音楽が流れ、片隅にはピアノが置いてあり、また、奥の



座敷の大きな窓からは緑の木々の風景が見え、とても落ち着けるお店です。

肝心のお蕎麦と申しますと、こしがあり、ちょうどいい歯ごたえでとても美味しいです。とくにお薦めは、「骨重ぶっかけそば」で、そばの上に、なめこ・鶏肉・野菜の天ぷらなど沢山の具がのっており、それに甘じょっぱいタレ汁をかけ食べると、又一段と美味しさが増します。また、温かいつけ汁に冷たいおそばをつけて食べる「海老あらそば」も絶品です。是非ご賞味下さい。静かな木立の中で味わって食べるお蕎麦は、最高ですよ。(E.S.)



手打ち蕎麦 自由庵

〒989-0916
宮城県蔵王町遠刈田温泉七日原1-132
TEL 0224-35-3551
11:00-16:00 木曜定休



平成十七年度 適正計量管理事業所 (郵政)実施状況

平成十六年度から日本郵政公社計量管理受託業務は、(社)日本計量振興協会と協定を締結し、郵便局内で使用されている計量器(はかり)の定期検査と自主検査で使用する分銅の校正を行っているが、平成十七年度実績は県内三三四局、計量器三七一台を行った。

平成十八年度は、引き続き計量器の定期検査と分銅の校正を実施するが、区域は仙台市と仙台市を除く九市九郡で、県内二二八局、計量器五一三台、分銅六二九個が対象となる。また、来年度より日本郵政公社が㈱ローソンに貸し付けている計量器の代検査も実施することになり、八月に仙台市内にある「アエル」で(社)日本計量振興協会主催による研修会が実施される予定である。この研修会は東北六県の計量士が集まり研修を受講し、当協会でも検査に携わる者七名が受講することになっている。

平成18年度優良事業所見学

- 【期 日】平成18年9月21日(木)~22日(金)
- 【見学場所】山形県新庄市大字福田字福田山711-139 (株)ヨコタ東北 0233-29-3611
- 【宿泊先】山形県湯野浜温泉「愉海亭みやじま」
- 【参加費用】¥15,000円
- 【申込期日】平成18年8月25日(金) 詳細は協会事務局まで

平成18年度東北・北海道計量大会

- 【期 日】平成18年10月11日(水)
- 【場 所】福島市飯坂町字中ノ内24-3 「摺上亭 大鳥」
- 【申込期日】平成18年8月11日(金) 詳細は協会事務局まで



お知らせ

計量制度見直しに係る説明会

- 【期 日】平成18年8月25日(金)
- 【場 所】仙台市青葉区本町3丁目3-1 仙台合同庁舎6階 第1・2会議室
- 【参加費】無料
- 【説明内容】1. 計量の基準と計量標準の供給 2. 適正な計量の実施の確保 詳細は協会事務局まで

2006みやぎ計量のひろば

- 【期 日】平成18年10月下旬予定
- 【イベント内容】健康測定(血圧・体脂肪) 重さ当てコーナー 計量記念日ポスター掲示 計量相談コーナー 記念品の配布



編集後記

先日、なにげなしに夕方NHKの週刊こどもニュース「質問バンク」で、「日銀総裁って？」の説明で日銀総裁の職業内容や権限を簡単に話してから、村上ファンドへの総裁個人の投資をパナエルを使用して金の流れと利益のもどりを、くわしく解説していたのには、おどろきを感じました。さらに中国の古事を用いて、「李下に冠を正さず、実がなつていぬ(李すもも)の木の下で冠かぶりもの」を直そうとすれば、すももを盗んでいると思われる。他人からうたがわれる行いはしない」とつけ加えたのには苦笑しました。大人が子供に善悪を明確に説明できない現在の社会には不安と責任を感じます。

編集委員長 加藤

計量協会設立五十五周年記念式典も協会員、職員、関係団体のみなさまのおかげで盛大に実施することができました。今後百年、二百年...と祝賀式典ができるようにしたいものです。